



時枋 報幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第152号

令和5年6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和

■枋幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



令和五年度を迎えて

枋幼連理事長 船田 弘和



令和二年度から始まった新型コロナウイルス感染症の対応も三年目を迎え、感染症の分類も二類から五類へと引き下げられ、コロナ後とも言える光が見えてまいりました。

日頃子どもたちの最善の利益のために、創意工夫された環境の中で、教育・保育の効果と感染症対策を同時に効果的に提供し、対応された加盟園の設置者・園長先生方のご苦労と、保育実践の場で子どもたちの心に寄り添い保育を進めてこられた先生方に心から敬意と感謝を申し上げます。

コロナ禍にあっても、栃木県幼稚園

連合会といたしましては、副理事長・委員長・理事・専門員の先生方と共に、先を見据え、前向きな活動が展開されてまいりました。これらの成果を今年度につないでまいります。

リモート及びハイブリットでの会議や研修のあり方等においては、リモートの参加のしやすさと、対面式ならではの効果を十分に比較検討することができたように思います。結果として今年度の栃木県幼稚園教育研究大会県大会においては、研修効果を最大限に得られるよう対面式を中心に実施することになります。また、関東地区教育研究群馬県大会も、完全対面式となります。

※来年の関東地区教育研究大会は、栃木県が開催県となりますので、ご承知おきください。

振興活動といたしましては、栃木県幼稚園振興連盟、栃木県幼稚園振興財団、栃木県幼稚園PTA連合会と共に今後活動を展開し、教育保育の質の向上のための活動、保育環境充実のための活動、先生方がより

安心して働けるための活動を様々なチャネルを活用し働きかけてまいります。その思いを込めて、三年ぶりに令和五年度の総会後に自民党所属の栃木県議会議員（幼児教育を支援する議員の会の先生方）をお招きして行われた幼稚園教育振興懇談会では、とても有意義な時間を過ごすことができました。

少子化が想定外のスピードで進む状況の中で、各園がその役割を果たせるように展開しているこれらの振興活動は、今後さらに重要なものとなりますので、この重要性を皆で共有し、広報活動を展開し進めてまいりましょう。

他に今年度は幼稚園ナビの活用への取り組みや、今まで自粛されてきた様々な事業が再開されることが予想されます。引き続き加盟園の皆様にはご理解と、お力添えをよろしくお願い致します。

こども政策課課長 就任にあたって

こども政策課長 天海 則仁



本年四月にこども政策課長に就任した天海でございます。

新年度となり早くも二か月が経過しました。
四月に入園した園児たちも新しい環境に慣れてきた頃ではないでしょうか。

一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様におかれましては、日頃から本県の幼児教育・保育の振興はもとより、県政の推進につきまして、格別のご理解、ご協力をいただいておりますことに、改めて厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、本年五月八日に五類感染症に移行されたことに伴い、三年余に及んだ感染症対策も一つの節目を迎えました。この間、様々な制約の中で、感染拡大の防止と教育・保育活動の両立に取り組んでいただいていた皆様方に、改めて感謝申し上げます。

今後の感染対策については、個人や事業者の判断に委ねることが基本になりますが、引き続き、会員の皆様方には、こどもたちが安心して施設を利用できるよう自主的な感染対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

さて、本年四月には、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組みや政策が社会の真ん中に据えられる「こどもまんなか社会」の実現に向けて、「こども家庭庁」が設置されました。

そして、「こども家庭庁」の設置と相まって、こども政策は社会全体



で取り組んでいくことが必要であるという基本理念に基づきまして、包括的な基本法として「こども基本法」が施行されたところでございます。

県といたしましても、「こども基本法」を始めとする関係法令に基づきまして、妊娠・出産・子育てなどの総合的な支援を実施していくとともに、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、国、市町、関係機関と連携して参ります。

また、栃木県は本年度誕生百五十年を迎えます。百五十年を契機としまして、すべての県民がとちぎで生まれ、育ち、暮らす喜びと誇りを分かち合うとともに、次の時代を担うこどもたちが、夢や希望を持って健やかに成長できるよう、幼児教育・保育の振興や子育て環境の充実に努めて参りますので、引き続き、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和5年度にあたって

幼児教育センター長 高木 恵美



全国に先駆け開設した当センターも昨年二十周年を迎えました。皆様には、

開設当初から、研修の受講、調査研究委員の派遣、幼児教育情報誌「おうち」の配布と活用など、多岐にわたるご支援を賜り、感謝に堪えませ

ん。特に、この三年は、コロナ禍での研修・事業の急な変更等、前例のない様々な対応にもご理解をいただきました。また、小倉 庸寛 園長様には、豊かな経験と見識に基づき幼児教育指導員としてセンター運営に寄与していただき、四年目となりました。重ねて感謝申し上げます。

このように二十年の歴史を振り返った時、「いつも隣に栃幼連」という心地よいフレーズが響いている当センター、今年度は不動の八名でスタートしました。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

さて、二十歳と言えば、つい最近まで「成人」として志新たにする節目でした。センターにおいても、これまでの業績と今般の幼児教育情勢等を踏まえ、さらなるステップを考えています。具体的には、以下の二点について取り組んでいきます。

一つ目は、「県全体の研修体系を踏まえた研修の再編」です。令和の日本型学校教育の実現は、教師の力に大きく依存しているとされ、学校教育の始まりである幼稚園等においても重要なことです。大まかな方向性としては、「年次研修」（新採・五年目・中堅 等）の質的拡充と「希望研修」（スキルアップセミナー・トップセミナー 等）の量的縮小です。保育者のキャリア形成と県全体の幼児教育の質向上のため、関係機関等と連携・協働しながら研修を精選していきます。

二つ目は、「幼児教育におけるD

X化の推進」です。簡単に言つとペーパーレス化に伴う「FAX通信からメール通信への転換」等です。具体的には、研修のWeb申込み、研修における報告書等の作成・提出のデジタル化、「おうち」のデジタル配信などです。すでに、年度当初の研修申込みについて、試行的に行いまして、皆様のご協力のおかげで、FAXによるものは激減（数件のみ）し、当センター業務においても生産性向上につながっています。

以上のことを中心に、今後も「いつも隣に栃幼連」のフレーズを振り所に「とちぎの子どもたち」のために尽力してまいります。引き続き、ご支援・ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

最後に、今、こうして「栃木県幼児教育センター」が幼児教育の中核的な教育行政として「ここにある」ことは、ひとえに栃幼連の皆様のお力添えのおかげです。

令和5年度における研修及び第70回県大会に向けて

教育研究委員長 小倉 庸寛



各園ともこれまでの約三年の間、コロナ禍で大変な思いをされてきたことで

しょう。

それがやっと、雲が薄くなり暗い

世界に光が差し込んできた…そんな思いであります。当連合会の教育研究に關しましては「学びを止めるな！」を合言葉に研修の機会を提供・実践し続けてきました。良くも悪くもなんとか継続できたことは、教育研究委員会に關係するすべての仲間、スタッフと、研修・研究に派遣していただきました設置者・園長の皆様、またご参加いただきました教職員の皆様のおかげであると心から感謝しております。

さて、教育・保育業界の現状はというと、岸田総理が「異次元の少子化対策」を打ち出し、こども家庭庁の設置、こども基本法の施行、何が何やら…過渡期でなく、混沌の時代に入ってしまったようです。その中でも待機児童問題の解消と不適切保育がマスコミで数多く報道されていることは、目先を量から質へシフトしていくと操作しているのではないかと勘繰るほどです。

県内では定員に対する充足率が低い施設が増えていく傾向にあります。そのような今だからこそ、幼児教育・保育の質の向上はアフターコロナ時代の園の命運をかける大きな課題となるでしょう。子どもの育ちは多様であり、いろいろな特性があることから、一人ひとりにあった教育・保育が求められています。通り一辺倒の保育では、到底対応しきれないことは、現場の先生が一番感じているのではないのでしょうか。さまざまな課題と向き合い、解決



に向け必死に考え、園全体で取り組むことが求められています。その先導役が園長やリーダーの役割であり、それを支える副園長（教頭）、主幹などのミドルリーダーのマネジメント力も求められています。ここが肝であり、厳しい言い方かもしれませんが、これが実践できない園は置いていかれてしまうでしょう。先導役である園長も中堅教員も担任教員もともに学び、質の向上を考え、今までと同じではなく、改善に取り組むことがまさに教育・保育の質の向上につながることでしょう。

最後に、今年度の教育研究大会は対面研修を基本に計画をしてあります。これはアフターコロナにこそ、改めて対面研修の良さを皆さんに確認して欲しいとの思いもあります。オンラインの良さも感じ、対面の良さを体験することでまた新たな視点が生まれるかもしれません。来年度は関東地区の教員研修大会が栃木県で開催されます。今年度の研修大会が来年度のプレ大会の意味も兼ねております。ぜひ、積極的にご参加いただき、栃木県の幼児教育のレベルの高さを示す土台となればと考えております。どうぞ、引き続き、教育研究へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 栃木県幼稚園連合会 定時総会

期日 令和五年五月二十四日(水)
会場 コンセーレ(アイリスホール)

今井副理事長の開会の言葉によって令和五年度栃木県幼稚園連合会定時総会が始まり、今年度は、コロナ感染終息の兆しの中、四年ぶりにリモートなしの会場に一堂に会しての開催となった。



船田理事長の挨拶に続き、栃木県保健福祉部ことも政策課課長天海則仁氏に祝辞をいただいた。その後、栃木県幼児教育センター長代理黒川貴広氏、栃木県保健福祉部ことも政策課主査菅谷洋之氏、一般社団法人栃木県幼稚園連合会顧問寺尾球司先生、同じく顧問石嶋勇先生がご来賓として紹介された。

資格審査後、議長に平出幼稚園園長稲川康代先生が選出され、議事録署名人の承認を経て議案審議となった。報告事項として、船田理事長より令和四年度事業報告、各委員会の委員長よりそれぞれ報告があった。審議事項では、第一号議案令和四年度収支決算の



資格審査後、議長に平出幼稚園園長稲川康代先生が選出され、議事録署名人の承認を経て議案審議となった。報告事項として、船田理事長より令和四年度事業報告、各委員会の委員長よりそれぞれ報告があった。審議事項では、第一号議案令和四年度収支決算の

説明、監査報告があり、承認された。

第二号議案退任に伴う役員変更について審議し、満場一致で承認された。すべての審議が滞りなく終了し、黒田副理事長の開会の挨拶により令和五年度定時総会は閉会した。



【資格審査】

(百九十三園中) 出席園 百八園
委任状出席園 八十一園

【議事録署名人】

認定こども園いずみ幼稚園 佐藤 峻介先生
認定こども園氏家幼稚園 中山 早苗先生

令和五年度総会 栃木県私立幼稚園振興連盟

期日 令和五年五月二十四日(水)
会場 コンセーレ(アイリスホール)

令和五年度栃幼連総会終了後、栃木県私立幼稚園振興連盟の総会が開催された。

振興連盟 石嶋勇会長より、会員各位の協力に対するお礼、振興連盟の意義の再確認と、今後もしろいろな意見を共有して幼稚園の振興に努めたいとの挨拶があった。

【議長選出】

平出幼稚園 稲川 康代先生

【資格審査】

(百七十二名中) 出席 八十七名
委任状出席者 七十四名

【議事録署名人】

認定こども園いずみ幼稚園 佐藤 峻介先生
認定こども園氏家幼稚園 中山 早苗先生

【記録人】

渡辺瑠菜氏(事務局)

【議案】

- 一、令和四年度事業報告並びに収支決算の承認について
- 二、令和五年度事業計画(案)並びに収支予算(案)の承認について
- 三、自民党栃私幼支部

令和五年度収支決算並びに令和五年度収支予算(案)の承認について

以上三議案は、すべて原案通り承認された。
総会終了後には懇談会が開催され、県議会議員の皆様を囲んで有意義なひとときを過ごすことができた。





教員養成機関・栃幼連懇談会

期日 令和五年六月二日(金)

会場 ホテルニューイタヤ(桜の間)

出席養成校(五十音順)

足利短期大学・宇都宮共和大学・宇都宮ビジネス電子専門学校・國學院大學栃木短期大学・国際看護介護保育専門学校・作新学院大学女子短期大学部・佐野日本大学短期大学・白鷗大学

主な懇談内容

県内の養成校八校(十六名)と栃幼連(正副理事長、常任理事あわせて九名)の懇談会は、主に次のことが協議された。

一、栃幼連加盟園による『合同就職説明会』(七月九日(日))の実施について

二、「就職情報誌」および「とちぎの幼稚園・認定こども園求人情報サイト」への広告(協賛)について

三、教員養成校の進路状況実態調査について

四、教育実習・保育実習について
五、幼稚園・認定こども園などの就職に関する諸問題について

各養成校からの情報によると、就職活動における傾向として、小学校教諭や公立保育所などの公務員志望者が増加しており、就職を決めるにあたっては、実習先の影響が大きいことがわかった。



〈教員養成校の進路状況実態調査票まとめ〉 令和4年度(R5年3月)卒業生

大学(校)名 (五十音順)	卒業生数	幼稚園		認定こども園		保育所(園)		その他	その他に就職した具体的な職種	令和5年度卒業生 見込み者数
		県内	県外	県内	県外	県内	県外			
足利短期大学	65名	4名(6%)		19名(29%)		13名(20%)		29名(45%)	児童養護施設・乳児院・放課後等デイサービス・一般企業・他	47名
		4名(100%)	0名(0%)	12名(63%)	7名(37%)	8名(62%)	5名(38%)			
宇都宮共和大学	46名	1名(2.2%)		7名(15.2%)		26名(56.5%)		12名(26.1%)	児童福祉施設(保育所以外)等の子どもにかかわる施設・事業所・障害系の施設・事業所・一般企業・進学	52名
		0名(0%)	1名(100%)	7名(100%)	0名(0%)	23名(88.5%)	3名(11.5%)			
宇都宮ビジネス電子専門学校	12名	1名(8.3%)		3名(25%)		3名(25%)		5名(41.7%)	児童福祉施設・児童養護施設・一般企業	15名
		1名(100%)	0名(0%)	3名(100%)	0名(0%)	3名(100%)	0名(0%)			
國學院大學 栃木短期大学	33名	1名(3%)		11名(33.3%)		8名(24.2%)		13名(39.4%)	編入学・児童福祉施設・一般企業	38名
		1名(100%)	0名(0%)	9名(81.8%)	2名(18.2%)	5名(62.5%)	3名(37.5%)			
国際看護介護保育専門学校	35名	3名(8.6%)		7名(20%)		18名(51.4%)		7名(20%)	障がい者施設・児童養護施設	47名
		3名(100%)	0名(0%)	7名(100%)	0名(0%)	17名(94.4%)	1名(5.6%)			
作新学院大学 女子短期大学部	121名	5名(4.1%)		53名(43.8%)		44名(36.4%)		19名(15.7%)	公立保育士・自衛隊・児童養護施設・障がい者支援施設・児童福祉施設・企業	117名
		5名(100%)	0名(0%)	53名(100%)	0名(0%)	42名(95.5%)	2名(4.5%)			
佐野日本大学 短期大学	66名	1名(2%)		26名(40%)		26名(40%)		13名(18%)	障害者支援施設・放課後等デイサービス・児童発達支援・乳児院・進学	90名
		1名(100%)	0名(0%)	21名(80.8%)	5名(19.2%)	23名(88.5%)	3名(11.5%)			
白鷗大学	84名	5名(6%)		25名(30%)		26名(31%)		28名(33%)	社会福祉施設(乳児院・児童養護施設・障害者支援施設・児童発達支援等)・小学校教諭・一般企業・社会福祉協議会・他	69名
		2名(40%)	3名(60%)	17名(68%)	8名(32%)	13名(50%)	13名(50%)			
合 計	462名	21名		151名		164名		126名		475名

(※令和5年5月に各大学(校)に調査したものをとりまとめたものである)



採の先生方には今まで一番長く感じられる半月だったのではないだろうか。保育者となつて研修二回目のこの日は、認定こども園黒羽幼稚園副園長の栗田典昭先生による、マナーアップ講座と銘打ち研修が行なわれた。マナーはもちろん大切であるが、働いている園の代表であるという自



令和五年四月十九日(水)



講師 認定こども園黒羽幼稚園 副園長 栗田 典昭 先生



参加 社会人一年目のマナーアップ講座、園の代表としての



内容 百八十四名



会場 ホテルニューイタヤ(天平の間)

令和五年四月十九日(水)

研修会だより

令和五年度 新規採用幼稚園教諭等研修(宿泊研修)代替研修①

覚を持つことが肝心だ。社会人一年目として、電話や来訪者への対応を行うときは、園の職員の一人であることを自覚することが大切であると伝えられた。

敬語についてのテーマでは、グループワークやロールプレイングを交えながら、社会人としての発言を学んだ。尊敬語や謙譲語を考えたときに、会話中ではなかなか言い換えが上手いかないときがある。保護者の対応時に緊張して言葉につまるようなときには本研修の資料を参考にしてほしいと願いが添えられた。

資質向上研修①「自然環境」

期 日 令和五年四月二十八日(金)

会 場 コンセール

(アイリスホール)

参 加 六十四名

テ マ 「自然の中から生まれるあそび(表現)」

講 師

むぎの穂保育園 園長 出原 大先生

※ヒトモ

本研修では自然あそび等のエピソードとともに、「幼少期の豊かな自然体験が人間の『生きる力』の源泉を築き、人生を豊かに生きる」ことについてお話しくださった。



人は自然の一部であり、共存し、子どもがそれに関わって遊ぶことは、ごく自然なことである。五感を

使い、遊び、「面白い!!」「なぜ?」「どうして?」と感じる中で、好奇心や探求心を持つことを繰り返しながら、学ぶ姿勢を培っていく。また、心動かされる体験から様々な感覚を養い、豊かな感性や表現も育まれる。アンテナともいえる五感(特に、嗅覚・触覚・味覚)は三〜五歳期が最も鋭敏であり、この頃に養われた感覚は人生の後々まで残るといえる。また、小さい失敗(棘が刺さる、葉で手を切るなど)をたくさん重ね感覚を養うことも、後の大きな怪我や失敗を回避する事に繋がる。なぜ直接体験がこの時期に必要なかが垣間見える。

出原先生は、口頭より「直接体験」とともに「愛されている実感」を大切にしてもらえる。愛と自然は繋がっているとも話されていた。子どもは、親に愛されたいと望んでおり、子どものそばにいる親や周りの大人が愛してあげる(一人ひとりの子を大事に思う)ことで、後に必ず他者を愛することができるようになるとの事である。また、子どもは「自分を愛してくれる人が好きなもの」を、好きになっていく。例えば、紅葉狩りに関心のない子が、自分が好きな先生に色とりどりの葉を持って行くとする。そこで「あら、これ素敵な色ね」「まあ、こっちの色も素敵」と先生に受容され、一緒に愛でることと「好き」が芽生えていくとのことである。

一人ひとりの心の中にあるものを捉えて関わることで、子どもは大人

にしてもらったようにして、優しく育つ。故に大人の心持ち(態度)や言葉ひとつが、興味関心や表現を断つほどに影響することもあると話しておられた。「子どもが自然に触れようとするのを止めているのは大人」という言葉も印象に残る。

自然体験の機会と環境の保障と共に、五感を使い夢中で遊ぶ子どもに対して、出原先生のように、その心の奥底を捉え、受容、共感し、心動かせる環境の一部となりうるであろうか：と自己に問い、研鑽を誓えた研修であった。

第一回〇・一・二歳児研修

期 日 令和五年五月三十一日(水)

会 場 コンセール

(アイリスホール)

参 加 百八名

テ マ コロナ禍での保育を振り返り、W・M・C・コロナの保育を考える

講 師

保育SOWラボ代表 井桁 容子氏

※ヒトモ

会場は、ほぼ満席で研修が行われた。

コロナ禍でみんなが困っているが、コロナによって気づけたこともある。コロナがあるうがなくなるが保育者が行うべきことは一緒である。



本来何をすべきか。

コロナ禍で、家庭や子どもが孤立し、ストレスが増加した。未就学児の心の健康では二〇%から四〇%の子どもが支援を必要としているそう。今こそ保育者の温かい心と丁寧な関わり、専門性を発揮し一人ひとりが幸せに過ごせるように個々を尊重し援助する事が大切である。保護者との信頼関係を築き、共感性や謙虚さを持ち共に生きる仲間として関わり、園は気楽に心を開ける場所になるような支援が大切である。

二〇二三年四月に「子ども基本法」が施行された。子ども一人の人間として子どもの権利を守り、人としてのマナーをもつて関わる事が大切である。保育者は、謙虚に今何ができるかを常に考えてアップデートすることが大事だ。保育者は、みんながよりよく生きるために子どもの隣に寄り添って子どもが声を上げる権利を行使することをサポートする。

子どもには、「子どもらしく」ワクワクする経験が大切である。子どもたちは自ら表現しながら互いを認め合い折り合いをつけていく。保育者は、直感的、本能的、経験主義に終わらせずに注意深く考え物事をよく見て傾聴し「子どもにとって」の視点を持つ必要がある。

〇・一・二歳児期の脳の成長は著しく保育の質が重要である。ヒトは、失敗したり、後戻りしたりを繰り返しながらその経験を生かしてだんだんに発達する。その時にそばにいる



大人の関わりが重要になる。子どもを操作するのではなく一人ひとりを大切にしたい保育が必要である。また、乳幼児期に養護と教育を一体的に行うためには、子どもが安心して遊べることが大切である。アタッチメントが保障され「基本的信頼感」が育ち意欲が育つことにより一生の対人関係を支える自我や自己肯定感が育つ。その為には、科学的根拠のある乳幼児理解が重要である。子どもの主体的で対話的な深い学びには保育者の主体的で対話的な関わりが重要である。今は、心の育ちが重視される時代である。心の安心・安全が生きる意欲・関わる意欲・学ぶ意欲につながる。

先生の思いを押し付けけない、園のすべての人が本気で子どもを人間として尊厳をもって関わると保育が面白くなる。形状記憶マインド（今までずっとこうしてきた）は危険である。大人が決めた正しさが子どもの育ちではない。子どもがゆっくり試行錯誤して学ぶこと、安心と信頼の環境のなかで、感じたことを表現し、人として生きる楽しさに気づく保育をすることが大切である。乳幼児期の子どもは天才である。大人は皆と同じでない不安な凡人である。一人ひとり違うみんなが自他を認め、ゆるやかに繋がるのが大切である。

保育の本質、保育者のあるべき姿を改めて学ぶ研修となった。

第四回設置者・園長研修会

期日 令和五年二月十六日(木)
会場 ホテルニューイタヤ(桜の間)
参加 八十九名(うちリモート参加五十七名)

メモ

今回の設置者・園長研修会は二つの研修テーマがあった。また、研修会冒頭に、明恵産業株式会社による保護者や保育者の負担軽減につながる安心チャイルドセットに関する情報提供がなされた。

テーマ①

「保育対策総合支援事業費補助金について」

講師

栃木県保健福祉部こども政策課 係長 谷川 尚久氏

保育対策総合支援事業費補助金の概要、補助事業の概要、令和六年度当初予算分のスケジュールについての説明がなされた。

テーマ②

「災害発生時の園のリスクマネジメント」幼稚園・保育所の被災事例」

講師

東京未来大学 こども心理学部 西村 実穂 先生



保育士や看護師の経歴を持つ講師が、実際に被災された幼稚園や保育園などに行き記録した資料をもとに、リスクマネジメントについての講話を聴くことができた。

寄稿

認定みどりこども園 岩本 眞砂枝 先生



「災害発生時のリスクマネジメント」と題した西村実穂先生による研修会に参加しました。

西村先生は東北から九州まで日本各地の被災した保育施設に足を運びその施設に寄り添いつつ調査され、貴重なデータを収集し検証されています。

私も認定みどりこども園も令和元年十月十二日の集中豪雨被災時に、西村先生のお申し出により被災初期から復興まで三年に渡りフォローアップとカウンセリングを受け、BCP作成にもお力を貸していただきました。

被災直後の混乱と不安の中で多くの方々からご支援を頂き大いに助けられました。私たちの状況を理解し手を差し伸べてくださった西村先生

の存在は私たちの心の支えでした。災害とはあらゆる自然災害やテロ、戦争、人的災害から現在の感染症蔓延まで多岐に渡り、災害危機が世界中で頻発している今、日頃からリスクマネジメントの重要性がより高まっていることを知り、当時の状況を思い出しながら再認識させられました。

発生前の備えとしてはマニュアル作成、職員研修、防災教育、今後必要になるBCP(保育継続計画)整備などが大切。水害に対しては止水板を取り付けたり、コンクリート製

の高い塀を設置するなどの備えを図る園もある。発生時にはまずすべての人の安全と避難経路の確保、迅速な保護者への連絡と引き渡しを行わなければならない。さらに発生後にはその後の対策や復旧の見通しを立てて、関係者への説明を速やかに行い、いかに精神的な安心感と信頼に答えられるかが大変重要だ。

幼稚園や一児の幼児教育では休園期間を設けることができるが、保育園やこども園は基本的に休園はできない。保育継続のために短時間で保育の代替え施設を確保する場合、その環境は安全に利用できるかどうか、周囲の環境や設備などの細かい課題に配慮しなければならない。

さらに仮園舎の設置や園舎復旧が済み、保育が完全に再開されるまでには億単位の膨大な費用がかかるわけで、経済的負担ゆえに廃園に至ったケースもあるようです。

存続の危機にも関わらず私立の施設には、自治体の援助はほとんど望めない状況であり、火災保険を確認し内容を見直すことも必要である。

こういった被災に伴う課題を被災園の職員だけで乗り切るのには不可能で、さまざまな面で支援を継続していく人的な存在が重要。協力者のリスト化や情報提供などソフト面の社会的な連携体制を日頃から備えおくような心がけたい。講話をうかがい、あたらめて今後も防災の研修を継続していかなければならないと感じました。



幼児教育センターだより



今年度の研修がスタートしました

新型コロナウイルス感染症の感染症状法上の位置付けが変更され、当センターにおける研修も従来の形に戻りつつありますが、今後も状況に応じて感染症対策を講じながら、研修を実施して参ります。今年度も完全オンラインによる研修を予定しているものもありますので、詳細は令和五(二〇二三)年度版「幼児教育センター研修案内」を御参照ください。

新規採用幼稚園教諭等研修

四月五日、新規採用幼稚園教諭等研修第一日を総合教育センターで実施し、二〇五名が研修に臨みました。開講式では、天海則仁こども政策課長、船田弘和栃木県幼稚園連合会理事長、高木恵美幼児教育センター長より挨拶があり、保育者の仲間入りをした新採者へ歓迎の言葉と温かいエールが送られました。

研修オリエンテーションの後、「教諭・保育教諭として」「幼児期の保健管理と危機管理」「幼児期の教育の基本」「保育の実践と省察」について、講話や演習を行いました。



新採者からは、

「社会人として、自覚と責任をもって職務に励んでいきたい」「同僚や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、自分の役割や付加価値を見出せるようにしていきたい」「記録を重ね省察することが子どもの理解や保育の改善につながることを学んだ」などの感想がありました。



子どもとの関わりが深められるよう、応援させていただきます。

幼稚園等教職五年目研修

五月十一日に、総合教育センターで第一日を実施しました。これまで様々な経験を積み重ねてきた、教職五年目を迎える幼稚園教諭・こども園保育教諭——一名が研修に臨みました。

「教職五年目への期待」「幼児期に育みたい資質・能力」「保育中の危機管理」「環境を構成する際の教材の工夫」「幼児・園児とものとの関わり」について講話や演習を行いました。

盛りだくさんの内容でしたが、受講者からは、「五年目として、自分の置かれている立場を理解し、保育に対して真摯に向き合



い、職員との連携も大切にしていきたい」「安全と教育のバランスをとりながら、子どもに必要な経験が保障されるよう保育を考えたい」「一つの教材で様々な活動ができることを学んだので、園内でも教材について話し合い、保育に生かしていきたい」などの前向きな感想があり、積極的に研修に臨む姿勢が見られました。

園の中核を担う受講者の資質・能力の向上となるよう、研修内容の充実に努めて参ります。

学校評価の在り方に関する資料を作成し、配布しました

昨年度の幼児教育調査研究成果物として、研究協力園の実践事例を冊子にまとめました。特に、学校関係者評価を含めたPDCAサイクルの構築により、園の教育・保育の質の向上につながる取組を具体的に掲載しています。



研究協力園の実際の資料も幼児教育センターWebサイトに掲載しておりますので、各園の取組の一助として御活用ください。

研修の申込みはこちらから

研修の申込みは、こちらの研修案内(三月送付)を御活用ください。研修内容と申込QRコードが一体となっており、DX推進の観点から、FAXの利用をメールやWebの利用へと、順次移行しております。研修の申込みはQRコードからの申込みが原則となりますので、御承知おきください。



また、研修案内は、幼児教育センターのWebサイトに掲載しております。

センター職員紹介

今年度は職員の異動がありません。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

マスコットキャラクタールビョちゃんピョッ!!



- 天川副主幹
- 富川指導主事
- 高根沢副主幹
- 神長幼児教育センター顧問
- 小倉幼児教育指導員
- 黒川副主幹
- 高木センター長
- 野中幼児教育指導員



こども政策課だより

四月の定期異動により、天海課長及び小川主幹兼課長補佐（総括）が着任し、子ども・子育て支援班では篠崎主任、中山主事が配属となりました。引き続き幼児教育の振興や子育て支援の充実に努めて参りますので、本年度もよろしく願います。



●小池主事
●石下主任
●初見主任
●中山主事
●山田主事

●篠崎主任
●上崎子ども・子育て支援班長
●天海課長
●小川主幹兼課長補佐（総括）
●菅谷主査

学校基礎調査について

私学助成を選択する幼稚園に対する教職員確認等のヒアリングを今年度も実施する予定ですので、御協力をお願いします。

詳細については、対象の幼稚園に通知しますので御確認ください。

各種届出書類について

●園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、各届出を提出してください。

●学校法人の令和四年度決算書及び令和五年度収支予算書の提出期限は六月三〇日です。

●令和四年度決算に伴う資産総額の変更登記を寄附行為で定める期日までに行い、登記済届を提出してください。

送迎バスの安全装置の設置について

送迎バスの安全装置の設置については、一年間の経過措置（令和六年三月まで）を設けておりますが、可能な限り、速やかに設置してください。

令和五年七月～九月までの事業予定

7月5日	栃幼PTA総会
7月5日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
7月9日	合同就職説明会
7月12日	保育セオリー講座
7月18日	※スキルアップセミナー
7月26日	③新採研（集合研修）
7月27日	0・1・2歳児研修
7月28日	新採研（地区研修 事前打合せ）
8月2日	新採研（宿泊研修 代替研修）
8月3日	バス安全運転講習会
8月4日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
8月9日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
8月10日	全日私幼関東地区教研大会（群馬）
8月17日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
8月18日	（財）幼児教育実践学会
8月19日	（財）幼児教育実践学会
8月22日	第70回県教研大会
9月6日	※幼稚園等教職5年目研修
9月8日	保育テクニカル講座
9月13日	※教育課程研究集会
9月15日	設置者・園長研修会
9月26日	※トップセミナー
	※は幼児教育センター事業

弔事

●足利市 足利さくら幼稚園
元理事長 中家カツエ 先生
令和五年四月二十九日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

自宅の車庫内に鳥が頻繁に出入りしていることに気がついた。不思議に思ってた。みていると、ツバメが一定の間隔で往復している。そこで、静かに車庫の天井を見てみると巣が作られていた。車庫内は高所の棚や突起物などもなく巣を作れるような環境ではないのだが、唯一天井に付いている電灯の側面を囲むように泥が固められていた。器用に作るものだなあと感心すると同時に、巣作りの過程を子どもたちと共有できるのは貴重な体験になると思い、そっと見守ることにした。

ツバメが来る家というのは、穏やかに暮らせる環境が整っているため、人との縁も多く、縁起がいいと言われているそうだ。

我が家は縁起が良くなるお墨付きをいただいているので、泥や糞の落下には我慢することにしよう。無事に雛がかえり、巣立ちができますようにと、子どもたちと一緒にツバメの繁殖を見守っていると思う。

（認定こども園高ノ台幼稚園 園長 吉羽俊明）